



マッシー川口の

from New York

「マンハッタンの出産事情」の巻

ハッピーハロウィーン！アメリカならではのこのお祭りは子供も大人もお目目が輝くイベントね。街の店先のウィンドウはオレンジ色のカボチャや黒いオバケが顔を出し、カラフルなお菓子の飾りであふれてるワ。おいしそうに見えても、オレンジ色と黒の砂糖菓子は激アマイ！今年はスーパーで売ってる直径30センチの大力ポチャ（4ドル99セント）をくり抜いて、中にろうそくを立ててランタンを作ろう！夜、家々のベランダに、オレンジ色のオバケな光がゆらゆらする景色はアメリカらしいよね。エンパイアステートビルディングの照明も、ハロウィーンウィークは鮮やかなオレンジ色よ！

ところで、先月号の文末に「元気な男の子を出産」って書いたら、読者の方から私のホームページにもお祝いメールが届いたり、編集部からもきゃわいっファミリアのベビー服を頂いたりして幸せでした。感謝！3385グラムで産まれたこの子の名前は露可（ろか）と言います。以後オミシリオキを。

ベビーにもハロウィーンにはコスチュームを着せちゃおうと思ってBabyCenter  でチェックしたら、ウサギに変身できるぬいぐるみ系を19ドル99セントで発見。ウサギ命の私としては「これに決めた！」と、すぐにショッピングカートに入れちゃった。どうもベビーが産まれてからオンラインでの購入が増えるわね。やっぱり便利なのよ。ワクチン前の生後6週間のベビーがいると、思うように買い物にも行けないモンね。

そうそう、ベビーが産まれたらクリブ（ベビーベッド）とバシネット（ベビーを入れるカゴのようなもの）は必需品。それからカーシート。これは出産した病院から自宅にベビーを連れて戻る時、すぐに必要なので早めにゲットするのが大切。法律でも定められているので、これがないと自宅にベビーを連れて帰れないのだ。

私はクリブはcribs2go  で買いました。ところが、これがデカすぎ！折りたたみ式なので、ただいま部屋の角で小休止中だけだね。クレイドル（ゆりかご式のベッド）と、ダイパーチェンジテーブル（おむつを替える台）は義理の妹の旦那、アダムスの兄夫婦から譲り受けた。アメリカでは子供が産まれる前に、ベビーシャワーというティーパーティーを催し、プレゼントや利用できるものを譲り合っって無駄なく乗り切るという習慣がある。私は自分からこういうパーティーを催すのに抵抗があるのでしなかったけれど、近所に引っ越してきた兄夫婦はさすがアメリカ人。わざわざうちまで、車でぞろぞろ運んでくれた。中にはダイパーやバスベッド（ベビー用ハンモック付きのお風呂桶）おもちゃのほかに黒いスーツケースのような外見の電動式オッパイポンプもあったよ。

なんせ初めてのことで、何が 필요한のかも出産クラスの情報に頼



e-mail: masshyk@hotmail.com

カワグチ マサヨ

「NY在住のフリージャーナリスト。95年に渡米し、日本での取材番組のキャリアを生かして、テレビやラジオ、インターネットにNYからレポートを発信している。最近では、日本のニュース番組の取材コーディネーターとしても活躍。
 masshy.com



るばかりでよくわからなかったけど、このポンプはかなり重要。アメリカのマザーは母乳をポンプマシーンで瓶に取って冷凍保存しておき、お出かけや留守で預けるときには、それを湯煎して哺乳ビンでベビーに飲ませるのだ。これには驚いた。@@) 露可はゆりかごのベッドで毎夜すやすや眠るけれど、3時間おきにフンギャフンギャと、警告泣きでおっぱいを要求するから寝不足続きだけれど、可愛いから許せるのよね。私にも母性が目覚めてきたのかしら。ウフフ。

出産過程自体はさすがアメリカ。マウントサイナイ大学病院では、妊娠3か月未満に行う遺伝子の検査から始まって、プリネータルバイタミンといわれる、母と子のためのビタミン剤の投与、数々の検査をはじめ、お産もシステムチックに展開していくから、かなり楽な方だったと思うワ。私は日本から遊びにきた友人達とオイスターバーで、ランチを食べていたときに腹痛があり、病院に連絡したら「とりあえずいらっしゃい」ということで、着の身着のまま、モニターしに行ったら、結局、翌朝5時に産まれたの。最初から無痛分娩を

プランしていたので、陣痛の痛みもほとんど最低限に抑えられ、分娩までの8時間も陣痛にのたうち回ることなく、プライバシーの守られたお部屋でテレビを見たりビデオを撮ったり、旦那とおしゃべりしたりしながらリラックスして過ごせたよ。日本の友人からは「女は我慢。お産は病気じゃない」など、メンタリティーを求められることが多いと聞くけど、こっちはドクターも「女性は痛みが強さなんか示さなくていいんだよ。痛くないに越したことはないから」というモード。エピドラルという麻酔も、専門医が24時間待機していて、「アメリカでは常識」と言っているくらい

よく普及していた。相談したドクターにもすすめられたよ。奥さんも使って良かったってね。で、万々歳のはずだったのが、分娩はさすがに痛いし、痛み止めが切れて退院してからが修羅場。アメリカは出産してオンリー2日で即退院なので、私も身体的にエライづらかった。アフターケアはあまりないのね～。でも、やっぱり早めに動いた方が早く元気になるようなので、それもアメリカ流合理性なかもね。2週間後、私はびんびん元気になったワ。

で、さっそくベビーのケアをしながら、自宅で日本のテレビ局の報道番組の取材リサーチとコーディネートでインターネット詰め。同時に「地球のつなぎ方」という本のNY取材とモデルも決行。その間にスタジオ収録にも出かけたよ。病院で買った授乳用のプールの浮輪みたいな平べったい駅弁スタイルのクッションにベビーを乗っけたまま、ネットでのリサーチも片手でメール打つのも、すっかり板についたわよん。^^) 人間は環境に慣れていくモノね～。

さて、今年のハロウィーンはウサギの親子に変装して、ダウンタウンへくり出そうっと！マッシー

● 今月の関連サイトはココ！

- ベビーハロウィーンはここで
- クリブはここで
- こも私の御用達
- あのトイザラスのベビー専門サイト

-  store.babycenter.com
-  www.cribs2go.com
-  www.babystyle.com
-  www.babiesrus.com

Illustration : Kido Satoko





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp